

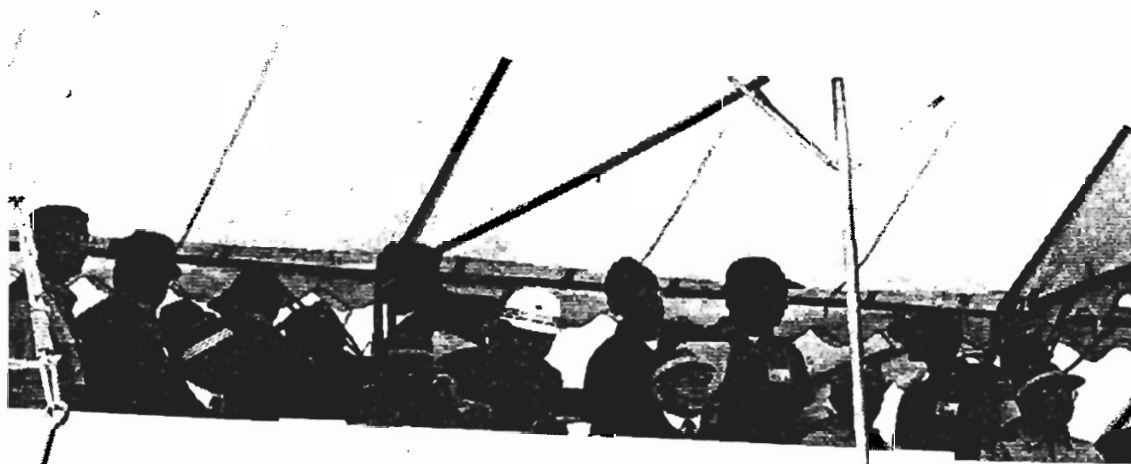
No. 14 建設防災 ボランティアニュース

第14号の主な内容（目次）

- 1 頁：平成16年度防災訓練（総括）
- 2～3 頁：六建防災訓練（水防工法、道路啓開）
- 4 頁：一建防災訓練（道路啓開）
- 5 頁：五建、東部公園防災訓練（道路啓開等）
- 6 頁：第二回道路施設点検（北南建、北北建）
河川愛護月間行事の意見交換会
- 7 頁：小森和雄氏寄稿文

平成16年度防災訓練区部でかつてない規模で行われる

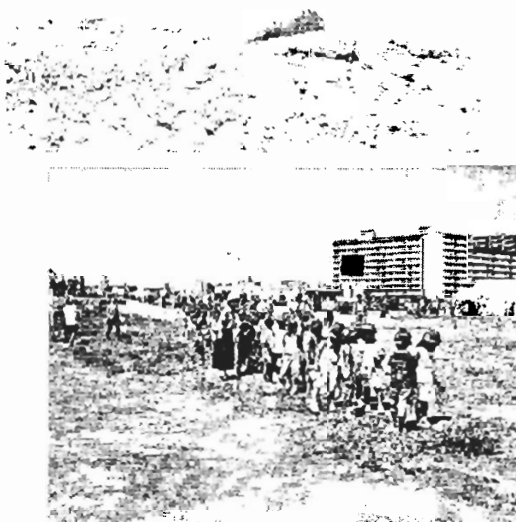
平成16年度、東京都総合防災訓練が今年も9月1日に実施されました。今年度ははじめての試みとして、「連携」をテーマに東京都と複数の区（台東区、墨田区、荒川区）が合同で訓練を行いました。建設局は道路、河川及び公園関係の訓練を行うため、一建、五建、六建及び東部公園が参加しました。当協会は建設局の要請を受け、それぞれの事務所担当の会員を中心に47人が参集しました。これはこれまでにない規模でした。各班の活躍ぶりはそれぞれの代表の方に執筆していただきました。（行事担当役員雑賀）



白鬚西地区中央会場において、水防工法訓練の状況を石原知事に説明する岩永建設局長



台東区中央会場（吾妻橋西詰周辺）の訓練会場風景



白鬚西地区を見学する園児達

水防工法設置訓練に参加して

六建班 栗田則男

平成16年9月1日、白鬚西地区中央会場において、水防工法設置訓練が実施された。六建・荒川区の職員並びに建設防災ボランティア会員の指導のもとで、地元の都立航空高専の学生たちに土のう・水のうの作成のほか、堤防決壊ばかりでなく建物への浸水防止にも役立つ、積み土のう工法設置や釜段工法設置を体験してもらった。

当日は都立航空高専の学生85人、建設防災ボランティア会員20人、六建・荒川区の職員を含め137人が訓練に参加した。

本番に先立ち8月25日に、事前リハーサルとして六建・荒川区の職員並びに建設防災ボランティア会員で、白鬚西地区において土のう・水のうの作成及び設置が行われた。都で永年働いていても実際の作業を経験した者は以外に少なく、荒川消防署職員の指導を仰いだ。土のう作成において砂の量はスコップ4杯位が適量で、俵に入れすぎると土のう積みで設置するとき、うまく馴染まず7割位が良く、また紐を締める位置はあまり下すぎるとやはり設置がうまくいかず、上の方で縛る方が良いことなどが体験をしてみて初めてわかった。

9月1日当日は台風も去り大変天気が良すぎ、我が防災ボランティア会員は制服・制帽に身を包み、滴る汗を気にもせず整列していた。一方高専の学生はTシャツで半ズボン姿が多く、“ちょう暑い”を連発しており、我々の長袖の服装を見て“信じられない・暑さがこたえないのかなあ”との疑問を投げかけていた。思うに防災ボランティア会員の殆んどは、酷暑の中でも背広を着込んで、各事務所を営業廻りしている実績のたまものである、ことを痛感した次第である。“ご苦労様です。”

土のう作成は結構体力がいり、学生達は大玉の汗をかいて頑張っていたので、時々土のう運搬の学生達との交代をはかった。また学生達があまり散らばらない意味からも土のう運搬は2列になり手渡しで実施した。多人数の学生を相手にきびきびと動いてもらうためには、“集合・整列”等の掛け声は、のどで出すだけではざわついている中、遠くまで通らず、腹から出すことが肝要であり、常日頃都庁での空手の訓練で大きな気合を入れ大声を出していることが大いに役立った。

高専の学生からは仕事の内容や就職のことなどで質問を受けたり、飛行機や自動車の設計などの仕事ができる会社に就職したい等の話を聞くなど、学生たちとも交流が芽生え大いに意義深い一日であった。

六



水防班二十人勢揃い



土のう作りに励む高専の学生達



土のう積みが完成し一息



水槽に浸して、水のうをつくる協会員

平成16年度東京都総合防災訓練に参加して

六建班 増澤一朗

関東大震災も、今日と同じような暑さだったと思わせのような残暑の日差しが照りつけた9月1日でした。

訓練会場の「白鬚西地区けやき通り」へは、新しく整備された街中を朝の通勤者と向き合いながら日陰を選びつつ歩きました。

地区事務所のご好意で着替えをし、広大な公園予定地内に設けられた「第六建設訓練本部」へ、我が「建設防災ボランティア協会」のメンバー精鋭9名が、八時過ぎ到着した旨報告しました。

訓練は、車が普段引切り無しに往き来している幹線道路、220メートルの区間を、1時間半にわたり通行止めにして行う「道路障害物除去訓練」です。

障害物除去と言っても、大地震発災を想定しているだけに、瓦礫・放置車両の撤去から、路面の亀裂・地割れの応急復旧に至るまで、訓練内容も豊富かつ、多くの関係機関の方々に参加されています。

早くも会場では、「西森本部長」以下六建職員が所定の配置に就き、それぞれ最後の点検に余念がありません。

わが精鋭防災ボランティア9名の担当は、道路の被害状況を六建本部へ連絡する情報班3名と、路上に散乱している倒木や、放置されている自転車・バイクを緊急車両が通れるよう車道中央に寄せる作業班4名、更に六建本部付けの2名です。

午前9時15分、作戦班長・石坂補修課長の発声、西森六建本部長訓示、岩永建設局長の指令で訓練が始まりました。

交通が規制されると同時に、道路上へ次々と瓦礫・放置車両・電柱・倒木等が慎重な半面、無造作な風に置かれ、段差もたちまち出来上がりました。

午前10時20分、女性アナウンサーにより障害物除去訓練開始が放送されました。

220メートルの区間を、住民の方々が見やすいよう6地区の道路に見立て、そこに各機関の訓練員をはじめ、防災ボランティアの4氏や都立航空高専生徒達が、建設車両・機械や器具を使って障害物を片付ける訓練です。

皆が一生懸命、倒れた街路灯や街路樹、散乱した瓦礫や自転車・バイク等を取り除いているちょうどその時、石原知事が訪れ、作業を熱心に見入っていました。

そして、目の前を歩かれている知事の表情から、全員が積極果敢な中にも整然と取り組んでいる姿に、大変満足そうな様子が見て取れました。

この間にも、六建本部のテント内では各地区の連絡員と盛んに無線でやり取りしています。

防災ボランティアの3氏は、六建工区職員と共に道路の惨状を本部情報班へ、てきぱきと報告し、本部付けのボランティア2氏も調整役で活躍中です。

指示・伝令・復命の声がきびきびと響き、実戦さながら真剣そのものでした。

たちまちのうちに道路上にあった障害物が取り除かれ、

1車線の幅が確保され、そこを各機関のパトロールカーが沿道の拍手に迎えられ通過して行きました。

午前11時、道路は交通規制が解除され車が元通りに走り始めました。

最後に、建設局野村副本部長・西森六建本部長より講評があり、無事成功裏に訓練は終了し、解散後全員帰途につきました。

ここに至るまでの第六建設事務所補修課をはじめ関係職員の大変なご苦勞に対し、心から敬意を表し、何かと私共防災ボランティアを気遣って下さった六建の皆様にご感謝申し上げます。有難うございました。



テント前に集合した協会員



石原知事を案内する岩永局長



路上の障害物の撤去作業

一建の防災訓練について

一建班 板倉治夫

防災ボランティア一建班（7名）の防災訓練参加は、台東区中央会場の一建道路啓開訓練（4名）と荒川区中央会場の河川訓練（3名）に参加しました。ここでは、一建の道路啓開訓練の様態について報告します。

台東区中央会場では、台東区浅草の繁華街にある吾妻橋西詰周辺において、一建の道路啓開訓練のほか河川護岸補修訓練、警視庁の車両からの救出訓練、消防庁の鉄道乗客避難誘導訓練などが同時進行で行われました。

防災ボランティア会員は朝7時に一建に集合し、防災服に着替え、マイクロバスで一建の皆さんと訓練会場へと向かいました。訓練会場は浅草の地下鉄等の駅前の繁華街で、朝の通勤客や乗換え客で雑踏するなか、会場設営などが行われました。

9時に一建所長（本部長）より本部立ち上げの宣言がなされ、職員が一斉に部署の配置につきました。防災ボランティアは、堀中リーダーが本部詰めで全体の進行管理、新井会員と板倉会員は点検係、田中会員が写真撮影などの記録係に参加しました。

本部を立ち上げて間もなく点検係の出番で、新井会員の道路障害（倒木、自動車下敷き、交通遮断）情報の第一報、引き続いて板倉会員の道路障害（ガレキ散乱、街灯倒壊）の第二報が続き、それぞれの障害物除去作業の指示がなされ、ショベルカーやレッカー車などの重機が次々と現場に到着し、除去作業が進められました。一方で、街路樹の下敷きになった乗用車の運転手救出作戦が警視庁機動隊により行われましたが、なかなか救出ができないハプニングもあり、実際の災害時さながらの緊迫感ある現場の雰囲気でした。

訓練は11時に予定通り終了し、交通開放がされました。その後、知事の視察が11時15分頃船で到着し、訓練完了後の現場を視察後、局本部長の報告を受け、講評会場へと向かいました。訓練はここで終了し、一建の皆さんと一緒にバスで一建に戻り、解散となりました。

今回の訓練の感想と反省点として、リハーサルの時は、皆要領がつかめず手間取っていましたが、練習の甲斐があつて訓練本番ではスムーズに進行しました。普段からの意識と訓練の必要性を感じました。

また、今回の一建会場の訓練は、狭い場所ながらも現道を規制し、浅草という繁華街で行われたことは、繁華街での災害時の対応として有意義であったと思います。特に、繁華街での災害は、いろんな災害が幅輻して起こる危険があります。今後、このようなことも勘案した訓練、対策が望ましいと感じました。

最後に、この原稿を書いているうちにも台風被害や新潟地震の大きな災害が発生しました。私たち防災ボランティアとして、これらの地区の災害にも何か救援活動ができる体制ができないかなと思う次第です。



一建道路啓開班の精鋭



ガレキ除去風景



倒木による交通遮断状況



運転手救出訓練

平成16年度総合防災訓練

五建班 吉田 稔

公園緑地部・東部公園事務所の防災訓練

東部公園班 角田 勲

当日の天気は快晴、東向島駅より歩いて8時45分に鐘ヶ淵の会場に到着し、直ちに防災用作業衣服・ヘルメ

ット・防災靴を着用して集合しました。

会場は墨堤通りと交差する墨田区道の一丁目<トミンハイム墨田>前を全面交通止めして行われました。この訓練は平成16年9月1日午前6時ごろ、23区北東部直下を震源とする強い地震が発生し、震度6弱以上を観測し

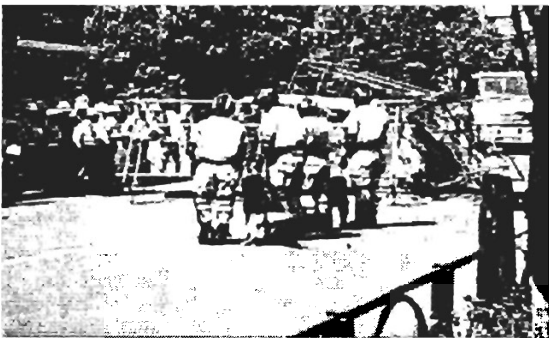


本部に報告する協会員

た、住宅・商業施設等に大きな被害が発生し、道路・鉄道等の交通網が遮断され、電気・ガス・水道等のライフラインが寸断されたという想定の下に行われるものです。

参加団体は警視庁・消防庁・日本レスキュー協会・墨田区・墨田区消防団・東京ガス・東京電力・水道局・墨田区建設業協会(坂田建設)・建設局であり、当協会からは8名が参加しました。

9時20分五建本部が立ち上がり、まず、防災ボランティア協会会員が参集の途中で得た被害状況を報告することからスタートしました。



災害捜索犬による救出訓練

訓練は緊張の中に道路段差の復旧・段差による漏水の防止・ガス漏れの安全確保・追突放置自転車の除去・ビル倒壊ガラの除去・災害捜索犬による負傷者の救出・電柱倒壊除去等が、消防車・救急車のサイレンの音・空気式放水器具の音・発煙筒による煙幕等騒然とする中で、順調に予定通りおこなわれました。当会員は五建の現場担当者とともに現場に出向き復旧状況を把握して中間報告をする任務を遂行しました。訓練はすべての現場で二車線確保が完了して終了となり、水川所長の講評・柿塚道路監の訓示で解散となりました。

当会員8名は東向島駅そばの中華料理屋(ラーメン屋)で大宴会を開き交友を暖めるとともに充実した一日を過ごしました。後日、五建の防災訓練打ち上げは所長・関係課長が参加のもとに会費制で行われ職員との交流もなされ更なる協力・連携・団結が深まりました。



東部公園班の精鋭5名

東部公園事務所の防災訓練は、総合防災訓練会場の一つの墨田区の東白鬚防災拠点(都立東白鬚公園)で行われ、協会から5名が参加した。

この総合防災訓練会場では、地域防災活動訓練、防災機関等活動訓練として実施され学校、自治会、行政機関等実施団体も多岐にわたって行われた。

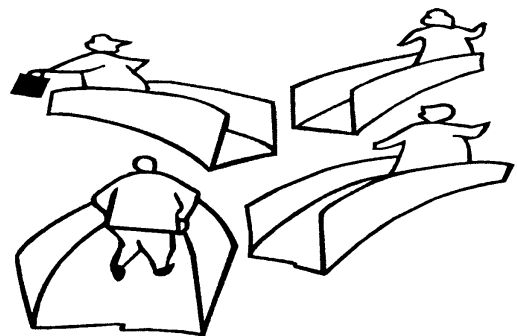
建設局は、防災意識啓発パネル展、防災ビデオ放映、仮説トイレ設置がテーマで、参加した会員は、アンケート調査の補助と仮説トイレ設置の訓練に参加した。

仮説トイレ設置は、防災拠点建設事業で既に設置された地下便屋(120戸)の上に囲いのブース(テント等)を組み立てて、所定に定置させる訓練である。

組み立てに要する時間や定置させる位置の工夫、そして、囲いのブースには、幾種類かあり、時とともに改善されてきていると感じた。また、災害時にどの程度の数の仮説トイレを設置できるだろうか、今後の課題か?と思った。

地震災害時の行政ストックとしての財産である公園は大きな役割を担うが、わが協会員のボランティア活動が、どのようなことに役立てばよいかを感じる次第である。

参加された会員の方々、ご苦勞様でした。



第二回道路点検・車椅子試乗に参加して

北南建班 菊池太彦

絶好の天候に恵まれた11月2日、補修課・課長補佐の藤本さん、主任の阿久津さんの案内で、三鷹通りのJR中央線のアンダー付近の道路へ。名和良雄さんと田口善隆さんと私（協会員は以上3人参加）は、藤本さんの指導で、交互に車椅子に試乗。普段、気にしない歩道も横断勾配のため、車椅子は下り勾配の方に向かい、なかなか真っ直ぐに進めることが難しい。慣れないためか、まるでジャジャウマのように言うことを聞かないことを体感しました。

まして、交差点の横断歩道での上がり下がりでは、巻き込み状になっているため、左右の腕の力を微妙に変化させ、その上、想像した以上のカイナジカラが必要です。

さらにアンダーのスロープへ挑戦。下りは、スピード制御が非常に困難。ブレーキをかけてもスリップして、そのまますべる状態。上りではどうしても重心が後方にかかるため、後にのけぞるような状態でひっくり返りそうになり中止。身障者の人たちのご苦勞を実感しました。

試乗体験、約1時間。その後、神代植物公園に近い調布3・3・6の環境施設帯のモデルを見学。案内の藤本・阿久津両氏の段取りの苦心と心憎いばかりの気配りにただただ感謝するばかりでした。

第二回道路施設点検

北北建班 武田 稔

北北建の平成16年度第二回道路施設点検は、快晴に恵まれた11月9日（火）に、会員9名中6名が参加し実施しました。

今回の点検対象路線は国立駅南の大学通りです。この路線は国立駅南口から甲州街道まではほぼ直線（一部支線有り）に2.3km、総幅員40m（都道22m・市道18m）の区間で、都道を挟み桜並木が見事な景観をかもし出しています。

今回の点検は、都道両側の自転車・歩行者道を2班に分かれて3人体制で実施しました。指摘箇所は9箇所、主なものとしてはアスファルト舗装の破損陥没、ガードパイプの破損、平板ブロックのがたつき、信号柱の腐食などでした。当地域が文教地区であることもあって、ほとんど緊急を要する箇所は無く、比較的安全で快適な歩行空間が確保されていました。

事務所に戻った後は、図面と写真で指摘箇所を再確認して点検を終えました。

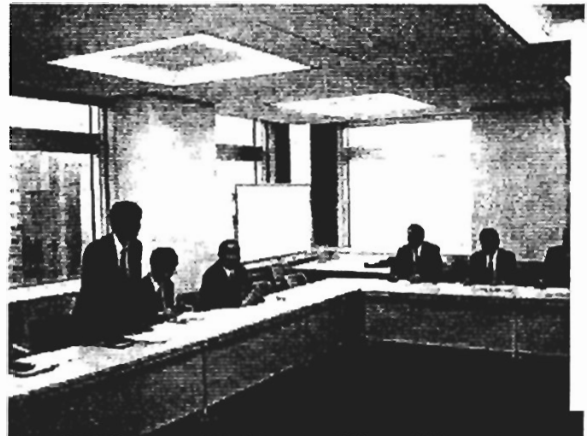
毎回のことですが、点検の準備・点検後整理など、事務所側の行き届いた気配りとご配慮に会員一同感服した次第です。

所長・補修課長をはじめ、補佐・担当者に感謝申し上げます。

点検後は、かつて通い詰めたという会員の案内により、駅前の居酒屋で反省会を行い、大変有意義でした。

会員の皆さん大変お疲れ様でした。

平成16年度 河川愛護月間関連行事 意見交換会



挨拶する原田河川部長

平成16年10月5日（火）10時から、都庁第1庁舎の会議室において、河川部主催の河川愛護月間関連事業の意見交換会が開催されました。出席者は、河川部計画課、一建以下13事務所、当ボランティア協会員12名です。

交換会の進行役は、河川部計画課環境計画担当の新谷補佐が担当され、原田河川部長の挨拶で始まりました。出席者の自己紹介の後、今年度の以下の行事実施報告が新谷補佐からありました。

川を歩こうでは、隅田川（一建、五建、治水）、旧中川（治水）、石神井川（四建、六建）、落合川（北北建）、野川（北南建）、程久保川（南西建）、多摩川（西建）で、河川清掃では、立会川（二建）、黒目川（七建）、境川（南東建）、環七地下河川の体験（三建）、野川の護岸作り（七建）、生物調査では、野川（北南建）、平井川（西建）、河川部主催行事（川のパネル展、夏休み！川の情報室、フォトコンテスト、東京の川を考えるシンポジウム）等について、資料に基づき短時間ではありましたが、要領よく説明がありました。



熱心な意見交換会の風景

行事に関する意見と課題については、

- ◎ ボランティアの人に交通費等を出せないか（七建、西建）また、お茶等を出せないか（四建）
 - ◎ 年配者が多かったので年齢構成を考えて募集する。
 - ◎ パネル展はマンネリ化している。テーマを絞る。
 - ◎ フォトコンテストは写真の大きさ統一、ジャンル分。
 - ◎ 魚の展示を工夫する。
- 等々の意見が出されました。

寄

「東京パークフレンド会員観察会」参加報告

——雑木林と人の暮らし——

稿

小森 和雄

「東京パークフレンド」は、東京都公園協会友の会の愛称です。現在会員数は、1260名。年齢構成は20歳代から80歳代までと幅は広いのですが、60歳代が40%・50歳代が29%・70歳代が12%と、中高年が中心です。男女比は、男が52%とやや多い。住所は、都内在住者が76%と多く、そのうち区部は72%・多摩28%ということです。私は3年前に都を退職したときにこの制度を知り入会しました。会員番号は、272番目です。

会員を対象とした催し物が時々開催され、その通知を



頂くのですが、今まで参加したことはありませんでした。今回は、9月27日（月）の午後・井の頭恩賜公園をフィールドとして開催されるということで、私にとっては、手近かなこと、現在、土日にボランティア活動をしている地元市の縄文時代の貝塚遺跡（どんぐり類を主食としていた）のガイドに参考になるのことがあるのではないか。パークフレンド会員の方々はどのような人たちなのだろう・・・と思い初参加しました。

講師は、東京農業大学の濱野周泰先生でした。当日は、かなり強い雨でした。私は「50人の定員に1.5倍もの希望者があり、キャンセル待ちが20人もいる」旨を聞いていたので参加状況はどうかと注目していましたら、定刻前に20人以上も集まり、最終的には、27人

もの参加がありました。散会時に主催者側は「この雨ですから、参加者は10人位なのではと心配していましたが、大勢来て頂き、先生に顔がたちました・・・」と挨拶されていましたが、この状況でこれだけ参加があるのは、企画が良いからではないかと思いました。



濱野先生は「NHK 趣味の園芸」の講師をされていたとかで、話題は豊富であると共に、人を引き付ける話し方で、50歳・60歳代の参加者は、メモをとったりして、熱心に聞き耳を立てていました。雨天なのになぜ決行なのかと、係りの人に聞きましたら、「講師の日程調整が困難なこと、雨天ならではの林の見方があるから」とのことでした。そのお話の通り、講師からは、樹木による



雨水の集め方の違いを、幹の濡れ具合や、樹形の違い・枝のつき方など、雨の日な

らではのこと、目で確かめつつお話しを伺うことが出来ました。

「東京パークフレンド」には、多くのOBも入会しているようです。年会費は2千円ですが、会員向け行事の他、協会発行の単行本やカレンダーが貰える・機関誌が送られてくる・協会主催行事への優先申し込みができる・有料都立公園の料金割引がある等々の特典があります。

緑に関心のある方は、公園協会「友の会事務局（Tel03-3359-9278）」へお問い合わせください。

第6回「都響三宅島支援チャリティコンサート」のお知らせ

日程・場所 2005年1月29日(土) 14時開演

東京芸術劇場(池袋)

出演者 指揮 ジャン・フルネ

司会 頼近美津子

都響チェロ・アンサンブル、金管アンサンブル

曲目 [チェロ・アンサンブル]

クレンゲル：讃歌

ヴィラ・ロボス：ブラジル風バッハ第5番(ソプラノ 山本真由美)

[金管アンサンブル]

バッハ：管弦楽組曲第1番より<ブーレ>

バッハ：管弦楽組曲第3番より<アリア>

バッハ：管弦楽組曲第2番より<パディネリ>

ワーグナー：歌劇「ローエングリン」行進曲(オルガン 室住素子)

[オーケストラ]

ビゼー：[アルルの女]第2組曲

ラヴェル：ボレロ

料金 S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,000 c ¥2,000

学生割引 各席 50%引き

シルバーエイジ(65歳以上、200席限定)各席 30%引き

その他 託児サービス、ハンディキャップ割引があります。

詳細は都響ガイドにお尋ねください。

お問合せ 都響ガイド(東京文化会館1階、都響事務局内)

電話 03-8822-0727(月～金 10:00～19:00 土17:00、日、祝日休み)

今回は、演奏会の前半は都響のメンバーの出演によるアンサンブル演奏、後半が都響の名誉指揮者で世界最高齢の現役指揮者のジャン・フルネの指揮でオーケストラを聴いていただく趣向になっています。アンサンブルとオーケストラ演奏をお楽しみいただけるものと思います。

東京都建設防災ボランティア協会からのお願い

- その1：上記演奏会の収益金は例年と同様、「三宅村災害義援金口座」に振り込まれます。チケットをどうぞ！
- その2：当協会では、現在、三宅島・帰島支援の義援金の募集を行っています。未だ、お済みで無い方は、平成16年12月30日までに、郵便局の『振込取扱票』により、振込み方、お願いいたします。

編集後記

- ☆ 今号は、9月1日の防災訓練を中心に編集しました。
- ☆ 小森和雄氏にはいつもご寄稿くださり有難うございます。
- ☆ 三宅島支援チャリティコンサート及び三宅島・帰島支援の義援金を重ねてお願いします。
- ☆ 皆様の原稿をお待ちしております。
- ☆ では、皆様良いお年をお迎えください。

発行人 沼尻 敦

編集人 城之内一成 奥水 昭秀

校正 金田 宗明

印刷発送 荒木 清

発行 東京都建設防災ボランティア協会

事務局 東京都道路整備保全公社 (tel:03-5381-3380)

播谷 知之 金田 宗明

東京都公園協会

(tel:042-548-9161)

荒木 清